



昨年度のターム留学を体験した生徒たち

グローバル人材の育成をめざす城北中学校・高等学校は、高1の希望者を対象に3か月間のターム留学を行っています。アメリカ・カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの学校から留学先を選び、現地の高校生と同じカリキュラムに取り組むことで生きた英語を身につけます。今回は国際教育委員会委員長の紫藤潤一先生と、今年1月から3月までターム留学を経験した高2の吉岡朋輝さん、佐藤佑大朗さんに、現地での学びについて聞きました。

現地校の多彩な授業を体験 数々の発見が視野を広げる

—初めに、ターム留学への参加を決めた理由と留学先を教えてください。

吉岡 ぼくは電気・電子系の学部を志望していますが、英語で書かれた説明書などを読んで理解できるくらいの力をつけたいと思ったのがきっかけで、アメリカのサンディエゴに留学しました。

佐藤 ぼくは英語で現地の方とコミュニケーションを取れるようになりたいと考え、ターム留学を決めました。ニュージーランドのティマルという、のどかな町の高校に通いました。

—現地の授業の印象について教えてください。

吉岡 手話やドラマ(演劇)など、日本にはない授業が行われていて、

新鮮でした。ぼくの留学先はキリスト教系の学校だったため、主要教科以外に聖書の授業も選択しましたが、辞書に載っていないような単語がたくさん出てきて苦労しました。しかし、疑問を持ったことを粘り強く調べる習慣が身につき、まさに今、難しい単語の多い電気・電子系の英文資料を読むときに役立っています。

佐藤 ぼくは数学・生物・化学のほか、料理を選択しました。実習でペアを組んだ女子生徒が、伝わりやすい英語を選んで話してくれたので、スムーズにやり取りができました。留学生の受け入れ大国のニュージーランドは、英語を母語としない人々に親切に接してくれます。今後、日本が国際化していくうえで、こうした気遣いが必要になるのではないかと感じました。

—ターム留学を体験して、ご自身で最も成長を感じたのはどんな点ですか。

吉岡 英語で聞き取れなかつた内容を、気後れせずに聞き返せるようになりました。

これが英語力の向上につながりました。1月の時点では、言いたいことがすぐには出てこなかつたのですが、3月には歴史の授業でグループ発表をしたときには、自分の意見を正確に伝えられる

で働いてみたいと考えています。

佐藤 海外の方と接することで、より柔軟な考え方方が身につきました。情報系の職業をめざし、日本でしっかり学んだ後、世界にも目を向けたいです。

紫藤 留学前に比べて2人は目に見えて積極的になつたと思います。以前より自分の意見を出せるようになります。こうした成長を実感できるのはうれしいですね。今後も多くの生徒に留学制度を利用してもらい、グローバル人材に一步近づいてほしいと思います。

4か国の学校から選べる3か月間のターム留学で 生きた英語力とコミュニケーション力を伸ばす



左から吉岡朋輝さん、佐藤佑大朗さん

Information

【学校説明会】要予約

2020年2月22日(土)13:30～

【入試説明会】要予約、6年生対象

11月23日(土・祝)10:00～

11月30日(土) 13:30～

※校舎案内、個別質問あり

プロフィール

城北中学校・高等学校

所在地：〒174-8711

東京都板橋区東新町2-28-1
交 通：東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分、東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅より徒歩20分

T E L : 03-3956-3157

www.johoku.ac.jp/